

○議長（茅沼隆文）

日程第3、報告第3号 平成25年度開成町土地開発公社事業計画予算及び資金計画についてを議題といたします。報告書の説明を公社理事長に求めます。

理事長。

○副町長（小澤 均）

それでは、報告第3号 平成25年度開成町土地開発公社事業計画予算及び資金計画についてご説明申し上げます。

報告第3号 平成25年度開成町土地開発公社事業計画、予算及び資金計画について、地方自治法第243条の3、第2項の規定により、平成25年度、開成町土地開発公社事業計画、予算及び資金計画を別添のとおり提出する。

平成25年3月5日提出、開成町長、府川裕一。

1 ページをご覧くださいと思います。

平成25年度開成町土地開発公社事業計画は、次に定めるところによる。

平成25年2月7日提出、開成町土地開発公社理事長、小澤均。

2 ページと3 ページをご覧くださいと思います。平成25年度の事業計画としましては、具体的な土地の取得、売却の予定はございません。窓口予算としまして、その他事業1,000円をそれぞれ計上させていただいております。

4 ページをご覧ください。平成25年度開成町土地開発公社予算及び資金計画、総則、第1条、平成25年度開成町土地開発公社予算及び資金計画は、次に定めるところによる。

収入支出予算、第2条、収入支出予算の総額は、収入支出それぞれ6,215万9,000円と定める。

2、収入支出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第1表 収入支出予算」による。

借入金、第3条、借入金の目的、限度額、借入先、借入方法、借入利率及び償還方法については、「第2表 借入金」による。

資金計画、第4条、資金計画は、「第3表 資金計画」による。

平成25年2月7日提出、開成町土地開発公社理事長、小澤均。

次に5 ページをご覧ください。第1表、収入支出予算、収入は、事業収入、土地売却収入4,962万5,000円、これは平成19年度に公社から町に売却した、松ノ木河原の土地に係る平成25年度分の売却収入でございます。借入金1,000円、繰越金、平成24年度からの繰越金として1,252万8,000円、事業外収入5,000円、これは利息収入でございます。収入合計は、6,215万9,000円でございます。支出としましては、事業費が土地取得費1,000円、一般管理費3,000円、借入金、償還金4,530万6,000円、これは平成17年度に公社が購入した松ノ木河原の土地に係る平成25年度分の償還元金でございます。

事業外支出187万1,000円、借入金、償還金に係る支払利息でございます。

そのほか、予備費1,497万8,000円を加えまして、支出合計は6,215万9,000円でございます。

6ページをご覧ください。第2表、借入金、目的、公有地等所得管理資金、限度額5億円、借入先、借入方法、借入利率、償還方法は記載のとおりでございます。

次に7ページをご覧ください。第3表、資金計画でございます。左側の受入資金、右側の支払資金の合計は、ともに6,215万9,000円となっております。

内容の説明は、5ページの収入支出予算で既にご説明したものと重複しますので、割愛をさせていただきます。

8ページと9ページをご覧ください。平成25年度収入支出予算説明書でございます。収入支出ともに、前年度予算から177万5,000円の増額としてございます。これらの内容も、5ページの収入支出予算でご説明申し上げたものと重複しますので、割愛をさせていただきます。

10ページをご覧ください。平成24年度収入支出決算見込計算書でございます。表の上の記載をご覧ください。平成25年3月末の決算見込みは、収入見込額6,038万3,761円、支出見込額4,785万5,026円、差し引きは1,252万8,735円となる見込みとなっております。

表の中の当年度決算額の欄をご覧ください。収入内訳としましては、町に売却した松ノ木河原の土地に係る町からの土地売却収入、平成23年度からの繰越金、預金利息収入となっております。

次に11ページをご覧ください。支出内訳としましては、公社が購入しました松ノ木河原の土地に係る借入金、償還金、事業外支出、借入金、償還金に係る支払利息となっております。

12ページから17ページは、決算書表でございます。12ページから14ページが、平成24年度末、15ページから17ページが、平成25年度末となっております。

初めに平成24年度の決算見込みでございます。まず、13ページの予定損益計算書をご覧ください。一番下の数値、当期純利益をご覧ください。松ノ木河原の土地に係る公社の償還金、償還に係る利息、町からの売却収入、預金利子収入を加味しまして、177万5,034円が、平成24年度における純利益となる見込みとなっております。

前のページ、12ページの予定貸借対照表をご覧ください。資産の部は、公社の保有している預金残額と松ノ木河原の土地に係る平成25年度以降の収益を計上してございます。

負債の部は、平成25年度以降に、松ノ木河原の土地に係る公社が償還する元金を計上してございます。

資本の部は、基本財産、前年度からの繰越金、先ほど13ページでご説明申し上げた当期純利益をそれぞれ計上してございます。

次に、平成24年度における資金の流れを14ページのキャッシュフロー計算書

でご説明申し上げます。(1) 事業活動によるキャッシュフローでございます。松ノ木河原の土地に係る売却収入から償還元金を差し引いた収益、利息の受取額、償還に係る利息の支払額をそれぞれ計上しまして、事業活動によるキャッシュフローは177万5,034円となる見込みになってございます。

次に(2)投資活動によるキャッシュフローでございます。平成24年度は、(1)の事業活動によって生じた収益と普通預金にある現金を加えまして、200万円を定期預金に積み増しをしたために、投資活動によるキャッシュフローは、マイナスの200万円となる見込みとなっております。

この結果、(4)現金及び現金同等物増減額につきましては、マイナス22万4,966円となり、これに(5)現金及び現金同等物期首残高を足しまして、(6)の期末残高は151万3,941円となる見込みでございます。

最後に15ページから17ページが、平成25年度の決算見込みになっております。計上内容については、平成24年度と同様になっておりますので、説明は省略をさせていただきます。

松ノ木河原の土地に係る公社の償還と町からの売却収入の差益については、平成24年度同様に定期預金に積み増しをしていく予定となっております。

説明は以上であります。なお、最近総務省の指導もありまして、全国的に土地開発公社を解散する動きも活発化しております。横浜市についても解散をするというふうな判断をしております。そういったことから、今年の2月7日の開催をいたしました理事会におきまして、以上の報告案件に加えまして、町土地開発公社の存続につきましても議論をしております。各理事からさまざまな意見が出されておりますけれども、公社を通じた土地取得の手法については、有効な手段の一つであることから、第五次の総合計画の前期基本計画期間中においては、現在のまま公社を維持していくこととしまして、ただし、現在の松ノ木河原の土地買収に係る償還が終わりますタイミング、平成27年度、これを捉えまして、以後予定しています駅前通り線、それから、周辺地域の基盤整備の動向なりを見据えながら、存続について、改めてその時点で議論を進めていくということにしております。

報告は以上です。

○議長(茅沼隆文)

説明が終わりましたので、質疑に入ります。質疑をどうぞ。よろしいですか。

(「なし」という者多数)

○議長(茅沼隆文)

それでは、以上で報告第3号 平成25年度開成町土地開発公社事業計画予算及び資金計画についての報告を終了いたします。

ここで暫時休憩いたします。再開を10時10分といたします。

午前9時50分